



会からのお知らせ

○ 5月 定例役員会

日時：平成22年5月8日（土）13:00～15:30
場所：サンパルネ・会議室

役員会には会員の皆様はどなたでも参加できます。是非ご出席頂き稲門会の活動等についてご意見をお聞かせください

○ 5月度・6月度合同お誕生会（担当幹事 南湖 390-2287）

日時：5月8日（土）17:00～19:00
場所：割烹「丸藤」 久米川駅南口から徒歩1分
電話 042-395-5646
会費：3,000円

該当の方々にはぜひ新たな形でのお誕生会にご参加ください。お待ち申し上げております。（特に6月誕生月の方もこの5月8日実施の5月度・6月度合同お誕生会ですのでお間違えのないようご注意ください。）

なお、誕生月ではないが誕生月の方と一緒に祝いしてくださる方のご参加も歓迎いたします。ご希望の方は担当幹事までご連絡ください。また、誕生月該当者で、下記されていない方は担当幹事までご連絡ください。

☆ 5月度お誕生の方々（敬称略 14名）

赤荻洋一、上原正行、相馬信一、高柳武司、滝川桜子、多田 実、西村守正、比留間光信、深瀬 聡、松澤 徹、森川 進、森本 吏、守屋幸一郎、吉田 勝

☆ 6月度お誕生の方々（敬称略 16名）

伊川浩生、市川彰彦、井原 徹、上 素子、大内一男、風間和夫、加藤正俊、重原眞知子、田口政澄、津野慶浩、當摩照夫、野村茂樹、北條 進、安田忠治、山口洋司、吉本正典

○ 第68回雑学講座

日時：平成22年6月5日（土） 15:00～16:30
場所：未定
講師：守屋幸一郎氏（当会会員 昭41政経卒）
演題：「私の早稲田と早稲田スポーツ」

佐賀の大隈重信と土佐の岩崎弥太郎（守屋氏は三菱マテリアルOB）との結びつきから、東京専門学校設立の決断の背景、そして早稲田スポーツと大隈老侯の関係といったバックグラウンドを解説していただきます。そして、守屋氏が現在もっとも力を入れている早稲田ラグビーの話もたっぷりとしてもらいます。

○ 他稲門会等出席

狛江稲門会総会	4月17日（土）	風間副会長兼事務局長・當摩副会長出席
東久留米稲門会総会	4月18日（日）	小亀会長・風間副会長兼事務局長出席

○ 電話番号変更

山下邦康 相談役 新電話番号 391-2520

○ 名簿の住所変更

金城 寛文 諏訪町 2-8-18 に変更

○ 退 会

岩城哲夫さん (萩山4-6-10)

○ 国分寺稲門会 林 久仁於会長急逝

3月14日国分寺稲門会の林会長(76歳)がお亡くなりになりました。3月17日のお通夜に小亀会長が参列しました。稲門会三多摩支部から生花一对をお供えいたしました。

○ 東大和稲門会 設立

3月21日(日)東大和稲門会の設立総会が行われ、三多摩支部としては25番目の稲門会の誕生となりました。会長には林 恒男氏(S38・商)が就任しました。小亀会長が出席し、お祝いを述べました。羽村市にも準備会が発足し、多摩26全市に稲門会ができる日も近いと思われます。

○ 狛江稲門会で 童話読み聞かせの会 狛江でボランティア(3月15日朝日新聞)

狛江市の早稲田大学卒業生でつくる同窓会組織(狛江稲門会)が、市立和泉保育園で「創作童話のお話し会」を開いた。同会は1998年に発足し、メンバーは70代を中心に127人、会長の宮沢晃平さんが、幹事長の関根勝也さんの創作童話に注目し初のボランティア活動として取り組んだ。

卒業式・入学式挙行 集まり散じて人は変われど ♪♪♪♪♪

2009年度卒業式が3月25日(木)記念会堂で4回に分けて行われました。

2010年度入学式が4月1日(木)同じく記念会堂で4回に分けて行われました。

卒業式はあいにくの雨でしたが、早稲田で学んだ4年間の糧に社会の閉塞感を打ち破り元気で活躍してくれることを期待します。稲門会に是非参加してください。入学式は満開の桜のもとで行われました。悔いの残らないような4年間を過ごしてください。

幹事長・事務局長会

3月5日(金)大隈小講堂で全国48支部、都内46稲門会、年次稲門会16、校友会・大学関係者14名計124名出席のもと開催されました。福田校友会代表幹事挨拶の後、校友会125周年記念事業、2010年度組織強化補助費、2010年稲門祭(10月17日(日))の件等の報告があり意見交換が行われました。(風間副会長兼事務局長出席)

春季代議員会

3月5日(金)大隈講堂で全国から多くの方が参加され行われました。2009年度活動報告および決算予想、2010年度活動計画及び予算編成、推薦校友候補者の承認、校友会設立125周年記念事業の件が協議され承認されました。また賛助代議員名称贈呈、校友会カード、校友会バッジ頒布方法変更、2010年稲門祭の件等が報告されました。

(風間副会長兼事務局長・当摩彰子副会長出席)

ハンセン病の歴史伝える碑 多摩全生園に建立

東村山市の国立ハンセン病療養所「多摩全生園」に、「人権の森宣言」の石碑が建てられた。

宣言は、同園の緑や建物を入所者の苦難の歴史の記憶とともに残していく決意を述べている。3月6日除幕式があり、渡部尚市長ら関係者70人が出席。差別や偏見への深い反省とともに、人権尊重への思いを新たにした。(3月7日・朝日新聞)

訃報

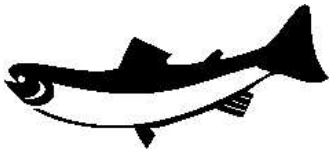
当会会員滝川桜子さんのご母堂、神尾民江殿(89歳)には3月13日ご逝去なされました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

なお、会則により、生花をお供えし、弔電を差し上げました。

東久留米稲門会映画鑑賞会

東久留米稲門会の平山会長から映画会をやるので見に来ませんかとお誘いを受け、3月25日東久留米成美教育会館で「グレンミラー物語」を見てきました。ジェームス・スチュアートとジーン・アリスンの往年の名画で、懐かしい感じでした。雨で寒い日でしたが、定員300人の席が全部埋まり、なかなか盛況でした。会員の米光慶二郎さんの名解説も楽しく今回で28回目になりますが、毎回満員になるそうです。東村山稲門会もサンパルネ・ホールができたので、市民にも開放して映画会ができないもののでしょうか？映画好きの方がおられましたら、是非実行委員になっていただけませんか？

(小亀記)



ヤマメとサクラマス

吉田 勝 (S43理工)

釣りファンの方はご存知のことと思いますが、溪流に住むヤマメ（山女、山女魚）と、鮭と同様に海に下ってヤマメの数十倍もの体重に成長するサクラマス（桜鱒）はもともとサケ科の同じ魚です。

ヤマメの天然での分布域は本州の関東以北の太平洋岸と日本海側全域、九州の一部に分布していましたが、近年放流により分布が乱れています。北海道、東北地方では「ヤマベ」とも呼ばれ、2年魚でも全長20センチほどにしかありません（ダム湖などに下り再び遡上してくるものは40センチに達するものもありますが）。ヤマメは大変警戒心の強い魚で、難易度の高い溪流釣りの対象とされており、塩焼きやから揚げなど癖のない料理として人気があります。

一方サクラマスは海に下って回遊し、30～70センチに成長して1年後に生まれた川に帰ってきます。海洋での回遊範囲や移動経路は十分に解明されていませんが、表面温度8～13℃の沿岸寄りを群れでオホーツク海付近まで回遊し越夏していると考えられています。降海前に体側面にあった暗青色の班紋が消えて銀色となるが、繁殖期になると桜色（ピンク）の婚姻色が現れることからサクラマスという名前がついたという説もあり、富山名産の鱒寿司にはこのサクラマスが使われています。

同じ魚がどうしてもこのように成長が大きく違ってしまふのでしょうか。

春先、卵から孵ったヤマメは水生昆虫などの餌取り合戦を繰り返し、初夏までにヤマメかサクラマスかの勝負が決まるのだそうです。勝負に勝った8センチ以上に成長したオスはヤマメとして生まれた川に留まって周囲の苔や昆虫を餌にしながら一生を川で過ごします（陸封型といいます）。

一方餌取り合戦に敗れて8センチまでに成長できなかったオスと、多くのメスは群れて故郷を離れて川を下り、翌春に海へ降って出て行きます（降海型といいます）。

長男だけが田舎に残って次男坊以下と女子は都会に働きに出て行くのと似ていますね。村に残って狭い田畑で食っていけるのは長男だけなのです。

海に下って荒波に揉まれ、大きな魚の餌食にもならず、海を回遊して豊かな餌を探し当てて生き残ったものだけがサクラマスとして体長60センチ、体重もヤマメの数十倍の3～4キロにまで成長し、故郷の川に戻ってきます。回帰率は数%から10%というデータもあるということで、故郷に錦を飾れるのはほんの一握りで大多数が大きな魚の餌食か大海の藻屑と消えてしまうハイリスク・ハイリターンの世界なのです。

人や企業も魚の世界と似ていますね。嘗て弱者だった人や企業が厳しい環境に鍛えられ、危険や困難を乗り越えて嘗ての強者より大きく成長できる。餌の豊富な海流にうまく乗った幸運もあるでしょうが、リスクを覚悟で荒波の大海に下ってチャレンジしなければ幸運も掴めなかったでしょう。

しかし都会に出てきても仕事に就けず派遣村で正月を過ごす降海型（サクラマス）のリスクを考えると、田舎で狭い田畑を耕しながらつつましく過ごす陸封型（ヤマメ）の方が今の世の中では貴重ですね。

平成22年3月・4月度合同「お誕生会」報告

HAPPY
BIRTHDAY

担当幹事：南湖修一 390-2287

衣替えして2回目となる3月・4月度合同のお誕生会は、3月6日（土）午後5時10分から久米川駅近くの割烹「丸藤」で開始された。3月と4月にお誕生日を迎えられる方々40名中13名を中心にその他役員などで総勢25名での盛会となった。小亀会長のお祝いの言葉のあと、風間副会長の乾杯の音頭によって始まった。恒例の誕生月該当者の方々の卒業年度・学部紹介も人数が多くなるに従い大変になって来た様子。しばらく歓談後、会長からバースデープレゼントが手渡され、これら13名の方々から夫々スピーチを頂いた。

最初に立たれた井垣和太さんはこの3月15日で古希を迎えるがこれからも“健康”でいくという意気込みを語られ、これまでご自身の誕生会には必ず出席という4月30日誕生日の石井久長さんからはオープンカレッジでの勉強を継続中との報告をいただいた。3月21日誕生日を迎えられる大野恵子さんはペットの犬が椎間板ヘルニアになってしまい愛おしいとのこと、2年ぶりにご参加の紅松容子さんはゴルフ同好会や朗読のボランティアなどでご活躍、昭和35年卒業後すぐに良妻を得たという土橋雄次さんは今年金婚式を迎えられるとご披露された。いつも楽しい茨城生まれの豊田友吉さんは3月30日生れだが、本当は4月の生れかもしれないとのこと、昭和4年4月26日生れの成田延雄さんは空襲のお話の後「これからも頑張る」と決意表明された。記憶力に自信をお持ちの“雑学の帝王”額田伊久夫さんはボケ防止のため週に3回は“平方根”を計算しているとのことのお話し、お母さまが101歳という松澤 宏さんは最近ジョギングからウォーキングに変え健康増進に努めていると話された。“ゲバゲバ90分”に関わっていたという昭和22年3月20日福井生れの山崎光夫さんは“福井ふるさと大使”としてもご活躍、昭和31年3月25日生れの山室 勲さんは現在も特許関係のお仕事を頑張っているとのことであった。健康の秘訣は「焼酎」という窪田淳治さんは誕生会は2回目のご出席、鹿児島生れだけあって焼酎は6：4のお湯割りが最高など焼酎の蘊蓄を披露された。最後昭和24年3月19日生れの遠藤 誠さんもビールにうるさくビール酵母が生きたまま入っているものが旨いと紹介された。3月誕生月の山崎さんから福岡 勝屋酒造の貝原益軒由来の「養生訓」という珍しいお酒、當摩副会長から兵庫の清酒の差入れもあり会はなごやかなうちに進んだ。そろそろ時間も頃合となり、赤荻さんによる記念撮影の後、井垣さんの音頭で「東村山稲門会の歌」、「早稲田大学校歌」を全員で斉唱、会はお開きとなった。

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



3月例会を3月6日行いました。参加は5名と少なく少し寂しい会でしたが、先ず昨年3月8日に他界しました、芦田均さんの冥福をお祈りし、改めて掛け替えの無い人となりをお祝い歌い上げました。参加は井垣氏、井出氏、高部氏、南湖氏、内藤。

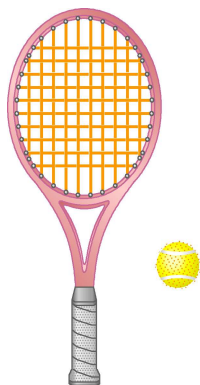
時間に余裕が有り大いに盛り上がり盛会でした。何時でも開放して居りますので御参加お待ちしております。

今後の予定

4月10日（土）	19：10	カラオケランド	ズー
5月 8日（土）	19：10	カラオケランド	ズー

テニス同好会

世話人 田島 隆夫 TEL 396-7676



このところ、例会が雨の影響で2回続けて流れましたので、3月の例会を3月23日（火）午前9時から11時まで 久米川コートで実施しました。参加者は、市川夫妻、井手、滝来、當間、戸田の各氏と田島の7名でした。久しぶりのテニスでしたが、皆さんが無事にプレーを楽しむことが出来ました。

今回は、井手さんのボレーが鮮やかに決まったこと、女性チームが某男性チームに完勝したことが特筆されます。

今後の予定

日時 4月24日（土） 9時～11時
5月10日（月） 同上（5月10日クローズの場合は5月17日同時刻）

場所 両日とも久米川コート3

ゴルフ同好会

世話人 井垣 和太 TEL 04-2924-2934



第27回東村山稲門会春期ゴルフコンペ報告

第27回東村山稲門会「10春季ゴルフコンペ」が、桜のつぼみが未だ固い3月26日（金）に、我々がホームコース「西武園ゴルフ場」で開催されました。

8:30前後から参加者は次々に到着。9:00頃からミーティングルームでモーニングコーヒーを飲みながらのコンペ内容の確認も出来るというゆとりのゴルフ会でした。

9:45からスタートで第1組紅松容子、山室勲、高部素行、月森通夫、第2組森田果子、内藤慎、鍋嶋高明、青山稔、第3組月森章子、益田昂、関一誠、井垣和太の12名が順次少し緑色がかってきたコースに、出動して行きました。

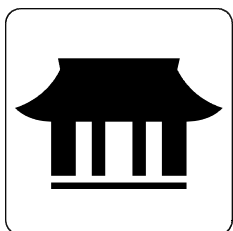
優勝は、前回から加入された青山稔さん（37法）が2回目で早くも栄冠を物にし、準優勝は、最年長の内藤慎さん（28商）がベストグロス87の実力を発揮して獲得。

当日幹事役の紅松容子さん（45教育）もドラコン賞、ニアピン賞をる活躍を見せ、今回もゲスト参加していただいた森田果子さん、月森章子さんともども、レディス3人がおおいに会を盛り立ててくださいました。

曇り空の小寒い中での春期コンペではありましたが無事終了し、帰路の道路渋滞の心配もなく、みなさんそれぞれ暮れなずむ多摩湖畔を後にしました。

(井垣記)

郷土史の会

世話人 江藤 昌明 TEL 391-4076
伊藤 友己 398-1352

郷土史の会の4月の会合は都内最古の国宝建造物（迎賓館が国宝指定されたので、唯一ではなくなりました。）である正福寺について勉強したいと思います。

言うまでもなく、正福寺は鎌倉の円覚寺舍利殿の建立年代を確定させる基準となった唐様の建造物です。唐様とは何か？正福寺の建造様式の特徴とは何か？そんな疑問を解き明かしていきたいと思います。

当日は、東村山市ふるさと歴史館の学芸員小川直裕氏にお願いして、詳しい解説を頂いた後、正福寺の見学をしたいと思います。

近くに有ると中々きちんとした説明を聞けない物です。是非この機会に郷土の宝に出会って下さい。ご参加下をお待ち致します。

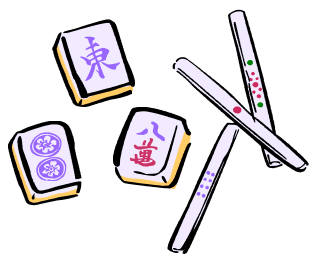
記

日時： 4月25日（日）13:30～16:00

場所： 東村山市ふるさと歴史館研修室

麻雀同好会

世話人 小野 智 TEL 391-9523
松永 常尚 332-5621



第50回大会を去る3月14日(日)麻雀Mにて盛大に開催しました。雀戦に先立って、名カメラマン赤荻氏より、参加者全員の記念写真を撮って貰いました。

節目の大会に相応しく、開幕当初から以下の各氏の差入れの酒、アルコールで宴会麻雀となりました(小亀、三宅、小野、風間、吉田(国分寺)敬称略)。最初から終わりまでその凄まじい飲みっぷりもまたわが麻雀同好会員諸氏の健康ぶりを発揮した証左であると、ご同慶の至りであります。

記念すべき第50回大会の優勝者は過去3回(第8回、14回、41回)の優勝経歴を誇る小亀会長がのっけから腕をまくりの意気込みに皆は圧倒され、見事価値あるその栄冠を手中に、第50回大会の覇者となりました。

尚、今回は記念の証として参加者全員及び過去大会関係者諸氏に第50回東村山稲門会麻雀同好会の印字を刻んだ記念品を贈呈しました。

以下、当日の参加者は赤荻、朝木、阿部、江藤、小野、佐野、鈴木、田口、土橋、當間、長井、番場、松永、三宅、吉田(国分寺)の各氏でした。

只残念な事には世話役が酩酊気味の故か、肝心の雀荘における「都の西北」を斉唱する音頭を取るのを忘れてしまった事でした。

次の開催は6月27日(日)に予定しています。

(松永記)

俳句同好会(稲酔会)

世話人 井垣 和太 04-2924-2934



第49回「稲酔」俳句会の日程は下記の通りです。

記

開催日時 : 4月24日(土) 午後1時開始
会場 : 恩多ふれあいセンター 和室
兼題 : 遅日(暮遅し、暮れかぬる、夕長し)
出句 : 兼題句及び当季雑詠計五句
投句参加も歓迎いたします。前日までに世話人まで。

《兼題「遅日」》(遅き日、暮遅し、暮れかぬる、夕長し)

同じような意味合いの、日永(ひなが)という季語もありますが、日永が昼間の長くなつたことに重きをおくのに対し、遅日は暮れ方の遅くなることに重点を置いています。春分を過ぎると夕方6時過ぎでも外は明るく、夏至になるまでの間日毎に日の入りの遅くなっていくのが実感されます。

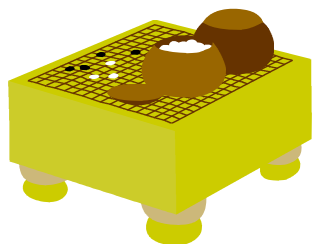
この庭の遅日の石のいつまでも
軒の雨ぼつりぼつりと暮れおそき
夕永き空につづける道くらし

虚子
一茶
梵

(稲雀記)

囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 394-0593
高 鷲 近 394-2336

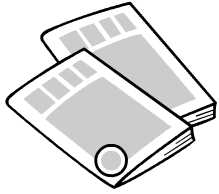


●4月の「例会」は、下記の要領で開催します。「例会」は、勝敗よりも会員の親睦と、囲碁を楽しむことを願って開催しています。ルールを少しでもご存じのかたは、ぜひご参加ください。

日時 平成22年4月17(土) 午後1時開始
場所 市民センター別館 第6会議室

○《囲碁の歴史①》 実際の起源は、はっきりとわかっていない。囲碁の起源は、中国で占星術の一法が変化・洗礼されて、今の形となったのではとされている。少なくとも春秋時代には成立していたようで、『論語』『孟子』の中には囲碁の話題が出てくる。

考古学的な考証をみると、2002年に、中国で前漢時代(206BC~24AD)のものと思われる陶製の碁盤が発見されている。このことから、中国では、囲碁は2000年前には、ゲームとして一般的であったと考えられている。



週刊誌の社会的役割と問題点

三菱化学㈱ 知的財産部
(平成18年3月 理工・応用化学科卒)
劉 雲龍

「マスメディア」と聞いてすぐ頭に思い浮かぶものにテレビと新聞がある。しかし、それらに匹敵する、いや時にはそれ以上の影響力を発揮するマスメディアがある。それが週刊誌だ。出版不況の煽りを受けて現在各誌とも軒並み販売部数を減らしているが、週刊誌は今や日本の社会には必要不可欠な報道媒体の一つとなっている。

その理由の一つは、週刊誌にしか持ち得ない自由度の高さにある。新聞やテレビ放送は、その公共性の高さから、権力から一定の制約を受ける。憲法で「言論の自由」や「表現の自由」が保証されている手前、すべてが制約を受けるというわけではないが、すべてが自由に報道できるというわけでもない。これは権力との距離が近いからとも言える。おまけに新聞は強固な販売網の助けもあって廃刊の危機に陥る可能性が低いため、各紙が鋭い分析や批判によって激しい競争を繰り広げることもない。情報の出所も限られており、ひたすら事実の羅列に終始しているのが現状である。それに対して週刊誌は権力との密着度が低く、その誌面においてしばしば鋭い体制批判が行なわれている。中でも政治家のスキャンダルは国民の関心も高く、頻繁に取り上げられている。そうした報道は、結果的に政治不信に一層の拍車をかけたという負の効果を産んでしまうが、政治や政治家に対するチェック機能というマスメディアに課せられた責務を十分に果たした点は評価しなければならない。

このように、週刊誌は権力と距離を置き鋭く批判できる非常に自由度の高いメディアである。しかし、その一方で、週刊誌は自由度が高いが故の問題点もいくつか抱えている。その一つを、少年犯罪をめぐる報道に見ることができる。

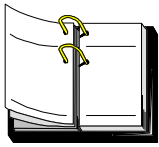
凶悪かつ世の耳目をひく少年犯罪が起きると、毎回のように週刊誌報道の是非が問われる。実名や顔写真が掲載されるからだ。「表現の自由」や「言論の自由」という観点からみれば、あるいは国民の「知る権利」に応えるという観点からみてもそうした報道は間違いとは言えない。又、犯罪の抑止という観点から考えると、そうした報道も一定の効果があるということで正しいといえるのかもしれない。しかし、その一方で、少年の更正・社会復帰等の観点からみれば、そうした報道は不適切だという意見も多い。この問題は今でも議論が続けられており、どちらが正しいかまだ結論が出ていないが、少なくとも、週刊誌は「言論・表現の自由」がどの範囲まで許されるのかということを真剣に考えることもなく、ただ読者の知的欲望を満たすため、時に自らを規制することなく暴走してしまうことだけは確かである。

週刊誌のこうした行き過ぎとも思われる報道は他にもある。過激な性表現もその一つである。過激な性的写真がいけないというわけではない。そうした写真を雑誌に掲載するのがいけないというわけでもない。ただ、新聞やテレビの欠点を補完し、権力の番人を自負する週刊誌の大きな社会的役割・影響力というものを考えたときに、果たしてそうした類の週刊誌にそうした写真を掲載するのが果たして適切なのかどうかという問題がある。

そして、虚偽の報道までが半ばまかり通っている。多くの週刊誌が事実でないものをあたかも事実であるかのように掲載し、その結果裁判で訴えられ、敗北するという経験をもっている。これは行き過ぎの極致であろう。

これらの行き過ぎ報道を生む背景には、週刊誌の売上至上主義がある。社会的摩擦や裁判沙汰を起こしてまで犯罪少年の実名・顔写真を掲載するのも、きれい事を言ったり正義ぶったりしながらその一方で過激な写真を掲載するのも、事実を歪曲して報道するのも、全て読者の購買意欲を刺激して販売部数を上げんが為の策である。

現在不景気の影響を真正面から受けている出版業界にあって、販売部数を上げること、少なくとも現在の販売部数を維持することは生き残りのための最重要課題である。事実を歪曲するのは論外であるが、その他に関しては致し方ない面もある。廃刊になってしまっただけは元も子もないからだ。しかし、上述したとおり、週刊誌には新聞やテレビでは果たせない重要な責務を負っている。困難な状況下にありながらも、決してそうした自覚を失うことがあってはならないと思う。



今月の行事（4月）

4日（日）	お花見会
10日（土）	4月度役員会 雑学講座 カラオケ同好会
13日（火）	園芸の会
17日（土）	囲碁同好会
20日（火）	さくらそう鑑賞会
24日（土）	テニス同好会
25日（日）	俳句同好会 郷土史の会

5月前半の予定

8日（土）	5月度役員会 5,6月度お誕生会 カラオケ同好会
10日（月）	テニス同好会



編集局だより

○春に飛散しているのは花粉だけではありませんよね。黄砂も飛んできます。お彼岸でお墓参りに実家に帰った時、黄砂混じりの雨に遭い、傘やバッグ、靴などにポツポツ黄砂が着いていました。たまたまこれらが目立ただけで、洋服にもしっかり着いていたはずです。車は泥はねしたように汚くなり、黒い車は特に悲惨な状態でした。今までは「今日は黄砂が飛んでいる」ぐらいで、あまり意識していなかったのですが、これからは「今日は黄砂がすごいね」という日が多くなるかも知れません。これは健康にも良くないし、被害が拡大するのも恐いものです。

○次号の原稿締め切りは4月22日（木）です。よろしくお願いいたします。（中村）

fax: 042-391-0581 email: mym-naka@u01.gate01.com

俳壇

音立てて椿落つるや春近し 内藤 慎
花開き水面に映ゆる雪の嶺 丸本 北窓
不忍のはちす眠りて春の雨 八木 竜湖
れんぎょうの垣根の奥の謡かな
耕人の声上下する棚田かな 栗島 三郎
乳児抱く婦の正装や花の影 井垣 稻雀
餌つく水輪広がる春の鴨 出田 麦穂
釣り糸の浮子動かぬ春の川 菊田 一平
浜釣りの足にじゃれつく春の波 揚雲雀青春の日は空の果て
沖の船空に浮かせて霞かな 幸田 瑞雄
ふはふはとおたまじゃくしの紐絡む 小永井 哲哉
卒業のコントラバスが未だ来ない 幸田 瑞雄
彼岸会や父母への想ひ七十年 高部 糸行
われ老いぬ雨に香らぬ沈丁花 戸田 梟
耳たぶと雲やわらかき卒園式 高部 糸行
照り映える桜人形焚かれぬし 高部 糸行
花冷えや多摩湖の雨に句の老いて 高部 糸行
老夫婦一週間の雛飾り 高部 糸行
うぐいすは練習段階ホーホケケ 高部 糸行
春を呼ぶ戸口に並ぶ桜草 高部 糸行

